

大祭司としてのメシア

2011/12/11

アドベント第3週

待ち望まれた 「メシア(キリスト)」の誕生



- 「メシア」とは「油注がれた者」という意味
 - － 「油」とは「香油」のこと。「香水」に近い
- 特別な職務のために神様から力(聖霊)を注がれることを象徴している
- 油注がれた人たち
 - － 王
 - － 祭司(大祭司)
 - － 預言者
- 後に「救い主」という意味を持つようになった

(大)祭司の役割



- 神殿祭儀の中心的役割を担う
 - － モーセの兄、アロンの家系の者に限る
- 神と人とを結ぶ仲介者
 - － 神の聖さの象徴であり、人間の罪深さの象徴でもある
- 祭司の役割
 - － いけにえを献げる(解体・焼却・共食)
 - － 聖所に供え物をし、燭台の油を注ぐ
 - － 大祭司は年に一度(贖罪日7/10)、至聖所に入り、民のために贖いの山羊をささげる

祭司の服装

- ターバン
- 額当て
－「主の聖なる者」
- 胸当て
－ 12個の宝石
- エフオド
- 上着
－ 裾にざくろと鈴



神殿の構造



契約の箱

香台

燭台

パンを置く台

洗盤

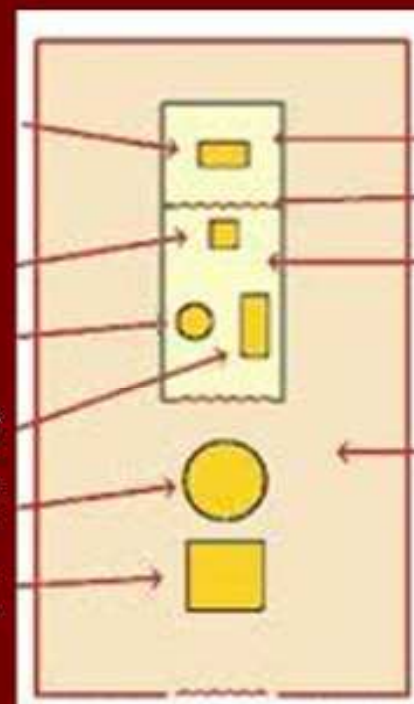
祭壇

至聖所

幕

聖所

庭



贖罪制度の欠陥



- 人間の祭司は自らも罪深く不完全である
 - 「この方は、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを献げる必要はありません。」＜ヘブライ7:27＞
- 贖罪日も神との距離を縮められない
 - 「第二の幕屋には年に一度、大祭司だけが入りますが、自分自身のためと民の過失のために献げる血を、必ず携えて行きます。…供え物といけにえが献げられても、礼拝をする者の良心を完全にすることができないのです。」＜ヘブライ9:7-9＞

完全な大祭司，キリスト



- 御自身の血により，完全な贖罪を成し遂げた
 - －「キリストは、既に実現している恵みの大祭司としておいでになった...雄山羊と若い雄牛の血によらないで、御自身の血によって、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられたのです。」<9:11-12>
- キリストに従って至聖所に導かれる
 - －「わたしたちが持っているこの希望は、魂にとって頼りになる、安定した錨のようなものであり、また、至聖所の垂れ幕の内側に入っていくものなのです。イエスは、わたしたちのために先駆者としてそこへ入って行き、永遠にメルキゼデクと同じような大祭司となられたのです。」<6:19-20>

十字架の光景



- 真の大祭司を侮辱した，大祭司
 - －「同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。『他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。』」＜マタイ27:41-43＞
- 神殿の幕が裂け，至聖所
 - －「しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け...」
＜27:50-51＞

大祭司 + α



■ 今も執り成しておられる

–「それでまた、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことがおできになります。」<ヘブライ7:25>

■ 弱さに同情して下さる

–「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。」<4:15>